

平成30年度 第8回人権教育学級

日時：平成31年2月7日（木）9：50～11：25

場所：別府市役所 5F大会議室

演題：同和問題から学ぶ

～子育てが「人権」や「差別」とどんな関係があるの～

講師：大分県人権教育研究協議会 研究員 岩永 哲雄 さん

●講演概要

1 はじめに ～ 出会ってすごいことですね

- ・昨年度の身近な人権講座で講師を務めた。その時の縁でここにいる。人と人が出会ってすごいこと。
- ・6年前まで高校の教員をしていた。岩永＝高校野球だった。
- ・石垣原養護学校（当時）の高等部の生徒たちとのかかわりで学んだこと・・・障がいがあろうとなかろうと、だれも楽しみたいし、いきいき生きていきたい。周囲がほんの少し支援や協力をすれば可能ということ。
- ・大病を経験したことで、朝、目を覚ますと、「僕は、今日も生きている」と感謝している。それが、今の自分の原動力になっている。



<講師の岩永哲雄さん>

2 「人権」や「差別」ってどういうこと？

○自分らしく生きていこうとした時に、生きづらさがないこと。

生きづらさがあれば、差別が起きている。

- ・人権をみんな難しく考えるけれど、ぼくはシンプルに考える。誰も、自分らしく生きていきたい。たとえば、部落に生まれたこと、障がいがあること、外国にルーツがあること、セクシャリティのことなどで、もし、生きづらさがあったらそこに差別が起きていると思う。
- ・ある小学校でのこと・・・あるお母さんは、ペルー出身の方。お弁当のおかず、お風呂の習慣、ハグなど、日本人に近づいて生きていこうとすれば、生きづらさはないけれど、果たして本当に自分らしく生きていけているのかと考えさせられた。弁当箱を開けた瞬間、・・・「わあっ、おいしそうだね。ぼくにもひとつくれるかい？」「うーん、おいしいよ。食べてみるかい？」・・・そんな会話が成立する関係づくりがあれば、お母さんやその子に生きづらさは起こらなかった。

3 子どもとどう向き合うのか ～ある高校で

・新採用として、やる気満々で赴任していった。ところが・・・

◆Aとの出会い

「先生、かわいそうやなあ。こんな学校に来て、おれはすかんもんが2つある。1番はポリ公や、2番は先公や」

- ・外見や言動で生徒たちを見ていたら、自分は、その子たちのうちなるもの、背景を見ようとしなかった。
- ・夢を語ったA⇒生徒が自分を拒否・拒絶しているのではなく、自分が生徒との距離をつくっているのではないか。

自己肯定感がもてない、教師への不信感、地域社会がつくりだす差別のまなざしのなかで生きている生徒と関わることで、自分の中の差別性に初めて気づかされた。

◆Bとの出会い

試験中に急に怒り出して、教室を出て行った。「勉強、頑張ったらどうか」と言うと「先生、今から小学校の勉強を俺にしよち言うんかえ。俺にもプライドがあるんで」と言ったあと、号泣した。

- ・Bの一番しんどいことを話してくれたのに、何も言えなかった。
- ・今なら言える「学ぶことは大切なことだし、それを始めるのに遅いということない、いっしょにやろうや」と
- ・Bの行動を自己責任にしていたら、Bは変わるチャンス・学ぶチャンスはなかった。

◎子どもたちの心の中に入り込むには

- ・否定しない
- ・外見にとらわれない
- ・現象にとらわれず、くらしや背景を考える

4 部落と出会うことで～人に知られたくないこと、しんどいことは、実は、一番わかってほしいことです。

- ・教師として、それなりに自信をもってやってきていた自分に「それって勘違いじゃないの」と気づかせてくれたのが部落との出会いだった。
- ・高校時代、同和教育は実施されてなかった。部落差別について、何も知らなかった。
- ・NHKで「識字学級」の放送を見た。部落差別の存在を知った。
- ・シンガーソングライター岡林信康が歌う結婚差別を問う「手紙」という歌との出会う。「こんな差別許せん」と怒りや正義感を持ったが、学ぼうとしなかった。時間がたつと、怒りは薄れて、受験勉強に埋没した。
- ・教員になってからも、部落問題学習をする時も、「こんな差別おかしいだろう」と言うだけで、そこから先の行動を起こすことはなかった。

- ・ 44歳の時に、同和教育推進教員になり、初めて部落の学習会に参加した。その時、自分は、差別はしないし、関係ないと思っていた。ところが、集会所に着く前から心臓がドキドキしていたし、子どもたちに声をかけることもできなかった。自分の中の部落への差別性に気づいた。自分は、部落差別も同和教育も何も分かっていなかったことに気づかされた。
- ・ 部落差別や同和教育との出会い直し、学び直しが始まった。

Cの言葉 部落出身であることを知った時

「自分も差別されるのかなあ。結婚できるのかなあ」と言って涙を流した。

↓

「学ぶことで、自分の意見を言ったりと、人権感覚を高めることができるようになる」

「部落に生まれてなかったら、人権について考えなかった」

「向き合うとは」

「うそをつかんこと、繕わないこと、自分を隠さずさらけ出すこと」

○部落に出会うことは、自分の差別性に気づき、自分のしんどいことも嬉しいこと、そんな思いや本音を語り合うことで、人と人がつながるとか、なかまになれることを実感した。

○自分の力では、どうしようもないことにもがきながらも、前に向かって生きていこうとしている子どもたちと関わりながら、子どもたちが、差別に直面した時に、命を落とさないように、差別に負けない力をつけさせようと、鍛えるつもりで、学習会をしていたが、私のほうが鍛えられていた。

落に出会うことは、自分の差別性に気づき、自分のしんどいことも嬉しいこと、そんな思いや本音を語り合うことで、人と人がつながるとか、なかまになれることを実感した。

「人の知られたくないことやしんどいことは、一番わかってほしいことなんだ」そんなことを言ってもらえる私は教員なのか、人間なのか考えるようになった。

◆進路指導室で

ある生徒との会話

「何であなたは先生になりたいの」「どんな先生や子どもがおった？」

中学校の頃、いじめられていた自分は、いじめていた子が周りから無視されるようになった時、何もしなかった。

「今度は、自分がその子をいじめているっていうことやな」

そのような体験や経験を経て、「自分のような子どもたちを出したくないから先生になりたいんよ。」

◆教室で

ある生徒とのやりとり

「トイレでのどに指を突っ込んでもどしてたんです」

「ちょっとしたメールの行き違いから、話さなくなってしまい、仲直りしたいけど言い出せなくて、どうしたらいいのかわからないんよ。」

2人を会わせ、話をした。お互いがお互いの思いを語り合ったことで、仲直りができた。人と人とのつながりを取り戻す瞬間に立ち会えて感動した。

◎思いを伝え合うことで、人と人がつながりを取り戻すことができる。

5 これから ~差別をなくすということは、どういうことなのか

日常生活の中で、対立したり、うまくいかないことがあったり、居心地が悪いことがある。

↓

子どもたちや皆さんの困りや悩みを解決するには、

- ・一人でもいいから、誰かの力が必要です。
- ・そんな出会いや学びやつながりがあれば、前向きに生きていけます。

○全国人権保育の研究集会で

自分の思いを伝えても、相手がどう思っているかを考えることが難しいじゅんちゃんに、保護者は「友だちといっしょに楽しく遊んでほしい」と願いながら、ひとりで悩んでいた。

じゅんちゃんは、力いっぱい抱きつくことで「嬉しい」や「好きだよ」という気持ちを表現していた。

ある保護者から、「じゅんちゃんの関わりに我慢するのはどうなのか」と抗議された。なかまづくりのためには、自分の思いを出し合った。

「好きだからぎゅっとするんだよ」「痛いよ。言葉で好きって言ってほしい」「やめてほしい」「優しくだったらいいよ」とじゅんちゃんに伝えた。

その後、じゅんちゃんが抱きつくとき、「いけんよ」と声をかけ、じゅんちゃんが「ごめん」という姿が見られるようになった。

この時のことを、子どもたちが保護者に話すことで、じゅんちゃんを理解する保護者が出てきて、送り迎えの時に声を掛け合うようになり、じゅんちゃんのお母さんは、わかってくれようとする人がいることが支えとなった。

○差別をなくすということはどういうことなのか

しんどい時に「しんどいと言ったり、言われたり」「そんな人に気づいたり」「相談したり、相談されたり」「頼ったり、頼られたり」する日常が子育ての中にあることが、差別をなくす営みがあります。

しんどい人だけでなく、周りの人も生きづらさがなくなる。

自分のしんどさや本音を、「ここなら言える」から「どこでも言える」学校や地域社会をつくりましょう。



半径5メートル以内の確かなつながりをつくりましょう。



そんな小さな輪をつないでいきましょう。

あなたの隣にいる人は、傷つけあうためにいるのではなく、尊敬するためにいるのです。

●班の話し合い

○2人の子どもがいるが、子育ての悩みは多い。子どもに「おかしい」と言って自分の考えを押し付けてしまっている自分がある。子どものルールを考えていかなくてはと思いました。

○子どもに感情的に言うてしまうことがあるので、子どもの考えを尊重するようにしていきたいです。

○いろいろな大人に関わらせてあげたいし、子どもたちどうしの関わりをもたせたいと思いました。

○部落問題について、いろいろな意見が聞けてよかったです。

○自分らしく生きることを考えました。外見ではなく背景を考えていきたいです。

○先生の話に聞き入ってしまいました。歌に目頭が熱くなりました。部落差別を知って子どもにどう伝えるか考えていきたいです。

○人権教育学級で、何回も研修を受けてきて、いつも話を聞いて良いことを学んでいます。子どもにもいろいろなことに出会わせることが大切だと思いました。

○頭の中では分かっていたけれど、自分でできること、小さいことからできると気づかされました。

○子どもの話は否定せず聞こうと思いました。

○小学生の頃、授業で部落のことを聞いた後、部落を探すということが起こり、友だち関係がギクシャクしてしまった経験があります。今の子どもたちはどうなのか。子どもからきかれたらどう答えたらよいのだろうと思ってしまいます。



<熱心に話し合う班の皆さん>

- 部落差別は、自分とあまり関わりがないと思っていたが、誰かと関わること、何か大変な時に誰かが助けてくれること、自分で抱え込まず、人に言わないとわからないこと、子どもや子育てをしている人に話すことで悩みなどが軽くなることなど、どれも大事ということが分かりました。
- 初めての参加です。韓国の友だちがいて子どもがいるので、今後のことを思うと学ばないといけないと思いました。
- 差別のない環境づくりが大切です。
- 知られたくないことが本当は一番分かってほしいことだということが、先生の話から分かりました。
- 「差別をしてはいけない」ではなく、そばにいる人を大事にするつながりをもつことが大切だと分かりました。
- 自分は、大丈夫と思いがちだが、そうでないことがあると思うことが大切。
- ちょっとしたひと言から差別が始まる。気をつけないければならないと思いました。
- 発達障がいをもつ子どもと接する仕事をしている。⇒実体験から言えば、子どもだけでなく親も発信することが大切。「ここなら言える」から「どこでも言える」社会をつくるのが大事ですね。
- 人の外見とかで差別していたのかと反省、考えさせられました。
- 人とのつながりに感謝、縁を感じました。
- 子どもは小さい時はよくしゃべるけれど、親もうそをつかず向き合っていきたい。そして、しんどい時はしんどいと感じとってあげたいです。
- 子どもが、悪いと言われるようなことをしていると、頭ごなしに叱ることがある。今後は、子どもの人権を尊重して向き合っていきたいです。
- 差別とは、生きづらさがあるということ、一人でも仲間がいれば頑張って生きていけるといことが分かりました。
- 半径5m以内の関係づくりをしていきたいです。
- 子どもに対しての理想を押し付けることも差別。思い通りにならないことで怒る、それも差別・・・ですね。
- 差別は、子どもに親の種を植え付けているのかも知れない。人とちがう、みんなちがうことでいいんだと伝えていきたいです。
- 思春期の子どもがいるが、どこまで人権的に差別の目で見ないようにしたらいいのか、話し合う機会があまりない。人としての接し方が課題です。
- 兄弟だと上が悪いとつい言うてしまう。押し付けなのかなと思う。話すことが大事かなと思いました。
- 姉妹をもつ親ですが、子育てが大変。お互い比べてしまいケンカしてしまう。先生の話聞いて人権について考えさせられました。
- 岩永先生のお話、とても楽しかったです。歌声もステキでした。「相談したり、相談されたり」「頼ったり、頼られたり」で差別がなくなるという言葉が印象に残りました。私の子どもも小学校からの友人と中学になって離れてしまいました。私の子どもはその後たくさん友人ができていますが、相手の子は今どう思

っているのか心配しています。今日は、考えることがたくさんありました。ありがとうございました。

- 子どもとの関わりが子育てにつながる。家族などで思いを伝え合う力が大切ということが分かりました。
- 今日のお話は、具体的で分かりやすかった。子どもが小さいときに知っていればもっと違ったかも知れないと思いました。
- 考えさせられることが多かったです。子どもを否定せずにいきたいと思いました。
- 先生の歌った「手紙」という曲を聞いてみたいと思いました。
- 心豊かに接していきたいです。
- 心を閉ざした子どもの接し方を考えさせられました。
- 子どもが一番の理解者でいたいです。
- 「否定しない、外見にとらわれない」は、子育てにもつながっていると思います。
- 勉強になりました。今までは子どもたち同士で話し合うことが多かったけれど、親も少し参加しようと思いました。
- 「あなたの隣にいる人は、傷つけあうためにいるのではなく尊敬するためにいる」この言葉が心に残りました。
- 同和問題と子育て・人々とのつながりが大切だと思いました。
- 親として自分のものさしではからないようにしたい。部落差別が今も続いているとは知らなかったです。
- 子育てをする中で、いじめ問題なども経験し、子どもの居場所を守ってあげることの大切さを知りました。親も子育てをしながら成長していきたいです。
- お話の中の子どもとの関わりがとても心に残りました。思いを伝えてもらうためには信頼関係の大切さが必要だと思いました。
- たくさん話をすることが大切と感じました。声かけをしていきたいです。
- 自分とちがう立場にある人への差別を感じることができた。
- 子どもたちから聞く話の中でもいろいろなことがあり、自分自身はどう関わることができるか考えていきたいです。
- 自分が普段生活している中ではどうなのか、考える機会となりました。周りへの関心をもっともつようにしたいです。
- 職場での差別（ちがい、それぞれの立場）について考えることができました。



< 班の発表・全体交流 >